

中央大学学員会 49年白門会会報 第7号

発行日 平成15年12月8日
 発行人 山崎厚太
 発行所 中央大学学員会49年白門会
 印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局 TEL. 03-3219-6175

会員数(2003年11月末現在) **255名。**

目標!! 会員500名!! 一人が一人紹介すれば500名になります!!

49年白門会のホームページ↓

<http://www7.plala.or.jp/hakumon49/>



(題字・葛西 聖司)

CONTENTS

- 1 ページ ★「わたしのプール「喝」用法」 葛西聖司
- 2 ページ ★2003年度総会議案報告
- 3 ページ ★総会・懇親会レポート
- 4 ページ ★会員からのエッセー「私の自己満足」
- 5 ページ
- 6 ページ ★友へのメッセージ「我がコレクション人生」 宮川 保
 ★事業部掲示板「新年会のお知らせ」「今後の行事予定」
- 7 ページ ★グルメリポート「大川端屋形舟情緒」 ★ホームカミングデー報告
- 8 ページ ★「楽苦我喜」 井上 修 ★会費納入のお願い ★編集後記



プールに時たま通う。健康を気遣う年齢になったから。でも、なかなか行けない。月謝ならぬ会費が無駄になるなあと悩み、無理して月に何回か出かける。これだけでストレスになりそう。本当に健康にいいのだろうか？

やっと水着に着替えプールに浸かる。ああ、身体が軽くなるし気分的にいいなと納得。ストレスが少し解消される。わたしは腰が悪いので、もっぱらウォーキングだ。ところが難題にぶつかる。べちゃくちや喋る声。熟年女性たちの会話が響いてくる。コースの先で立ち止まったまま。うるさい！ またストレス。その婦人避け手前でユーザーンしなればいけない。人が近付こうが全く動じる素振りがない。

それでも30分は水中ストレッチし満足して、プールサイドに上が

る。小さなジャグジー風呂があり、ぼくぼく出る泡を腰にあて仕上げをする。ただ、ここでも、べちゃくちやべちゃくちや。女性だけではない。中高年の男性も混じる。中身は父母会の話題。「なんで、ここまできてミーティングするんだっ！」と心でなじりながら、ジャグジーの隅っこに入ろうとするが、話に夢中で譲ろうともしない。またもやストレス。仕方ないので、シャワーだけで済ませ、一応 不満だけは伝えなければと フロントに。中年のマネジャーに今日だけではないと注意。「はい、わかりました」との答えにストレス 少し解消

物言えはまたストレス

それから数日してジャグジーに。相変わらず耳元でうるさい。ただ目の前の壁に張り紙。

「譲り合って御利用ください。なお、大きな声での会話は御迷惑になります」だつて。

そんなこと「馬耳東風」いや「無視」。読んでも自分たちのことではないと「そんな常識な人いるのかしら」と思っているのだろう。わたしの苦情で張られた紙はまったく無効。またストレスだ。

あるときは、ウォーキングレインが講習で使われていた。初心者泳ぐレインが歩いていないので歩くと泳いでいる人がぶつかる。もう片方の端のレインも別の講習で使用。これに、ブッチッ！ 帰りにフロントでマネジャーを探すが不在。若い男性に、ふたつの講習同時実施では一般利用者にしわ寄せだと抗議。なんと「講師の先生の都合です」と答える。だれを優先してるんだと怒鳴りたくなる。我慢我慢。「すいません」と謝ってから言い訳すればいいのに、一言も言わない若いスタッフ。言語道断。もう言い返すことばとてない。「このおじさん なに カッカしてんの？」という感じ。

がつくりして、帰りに自棄酒グイグイ。こんな わたし プールにこれから 通い続けたほうがいいのだろうか？ それとも退会？ 悩み過ぎてまたストレスになりそう。誰です？ 年取ると他人の「あら」ばかり探すようになるなんていうのは。あなたとわたしは同世代ですよ。プン。

わたしのプール「喝」用法

49年白門会副会長 葛西聖司

【49年白門会2003年度総会】

2000年7月2日に設立総会を開いてから4回目の総会が、後楽園にある中大理工学部の新3号館で6月28日（土）行われた。

4つの議案は滞りなく可決承認された。基礎固めの3年が過ぎ、飛躍の年になることを決意し、新しい一歩を力強く踏み出した!!

第1号議案

2002年度活動

報告について

1・2002年4月1日（月）

「49年白門会」ホームページ開設

2・2002年4月7日（日）

中央大学「観桜会」参加

中央大学多摩校舎：11名参加

3・2002年6月29日（土）

2002年総会・懇親パーティー

（中央大学駿河台記念館：40名参加）

4・2002年9月29日（日）

第13回中央大学ホームカミングデー参加

（中央大学多摩校舎：15名参加）

5・2002年11月9日（土）

ハイキングの会（鎌倉・天園ハイキングコース）

（10名参加）

6・2002年11月22日（金）

映画鑑賞会（松竹映画「たそがれ清兵衛」）

7・2003年1月25日（土）

（混合パンティオン：4名参加）

8・2003年新年会

（銀座「Samurai高松」：43名参加）

9・幹事会活動

第4号：2002年6月10日（月）

第5号：2002年12月4日（水）

第9号：2002年5月13日（月）

第10号：2002年6月10日（月）

第11号：2002年10月29日（火）

第12号：2002年12月4日（水）

第2号議案

2002年度収支計算書

（2002年4月1日～2003年3月31日）

〈収入の部〉（単位 円）

費目	決算額
会費収入	156,000
懇親会収入	405,000
雑収入	45,147
収入合計	606,147

〈支出の部〉

費目	決算額
通信費	63,120
事業費	189,735
事務費	0
懇親会費	415,340
交際接待費	10,000
雑費	4,312
支出合計	682,507
当期収支差額	△76,360
前年度繰越金	1,390,886
次年度繰越金	1,314,526

私たちが会計監事は、当会の第3期（2002年4月1日から2003年3月31日まで）の決算報告書（収支計算書及び貸借対照表）及び財産目録について監査を行いました。監査の結果、決算報告書及び財産目録はいずれも適正であると認めました。以上の通り報告致します。

2003年6月28日

会計監事 吉江 信博
 会計監事 木村 真
 会計監事 板倉 英行

第3号議案

2003年度事業計画案について

1. 「中央大学49年白門会」事業計画案について

会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学生会他支部との交流を図るための活動を行う。

- (1) 親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施
- (2) 会員名簿の発行と会報の発行
- (3) 新規会員の勧誘
- (4) 中央大学学生会他支部との交流
- (1) 「観桜会」の実施
- (2) 「ホームカミングデー」の参加
- (3) 「新年会」の実施
- (4) 「ハイキングの会」、「グルメの会」、「映画鑑賞会」等の会員親睦会
- (5) 「中央大学留学生」への支援
- (6) 125周年寄付活動
- (7) 関西支部結成に向けての事前活動等

2003年度予算案について

第4号議案

〈収入の部〉

費目	予算額	摘要
会費収入	470,000	(入会金@1,000×20、会費@3,000×150)
懇親会収入	400,000	(総会懇親パーティー@5,000×40、新年会@5,000×40)
雑収入	50,000	(総会懇親パーティー寄付金他)
前年度繰越金	1,314,526	
合計	2,234,526	

〈支出の部〉

費目	予算額	摘要
通信費	100,000	(郵送料、はがき代)
事業費	250,000	(会報制作費他)
事務費	30,000	(事務用品、幹事会貸借料、交通費他)
懇親会費	400,000	(総会懇親パーティー・新年会飲食費他)
交際接待費	150,000	(125周年事業寄付金・留学生の集い・他支部への包み金他)
雑費	70,000	(郵便振替手数料、学員時報広告料他)
次年度繰越金	1,234,526	
合計	2,234,526	

躍進を期し「49年白門会」 総会が盛大に開かれた!!

2003年6月28日に第4回目の「49年白門会」の総会が31名の出席の下開かれた。会場の中大理工学部新3号館は、中大の都心に於けるシンボルタワーとして建設されたもので、躍進を期する我が会の総会には打って付けの場所であった。

威容を誇る 新校舎で総会

平成15年6月28日午後、49年白門会総会が後楽園キャンパスに新築された3号館10階31008号室に於いて開催された。

開場より早めに到着したので、雨のキャンパスをぶらぶらしていると、理工学部出身の肥沼・石見両女史と出会う。二人は既に懐かしの校内見学を済ませた後であったが、改めて彼女たちの案内でキャンパス内を巡り、聳え立つ14階建てタワーを見上げながら3号館ロビーに到着した。広々としたロビーで寛いでいると、見慣れた顔が、一人また一人と集まってくる。もう4回目の総会になるのかと、時の早さに感慨深い顔がある。

10階の講議室からは、目の前に東京ドーム、小石川後楽園、遠くには新宿副都心のビル、東京タワーが一望にして見える。30年前には見られなかった風景が眼前に広がっている。こんな環境で勉強する学生が羨ましく思えた。

時代の流れを感じる出来事は、総



会が始まる前に流れた、15分程度の現在の中央大学紹介のビデオの内容だった。施設、食堂、授業風景、サークル等、30年前に学生だった我々には、想像もしないような変わり様だった。

第4回の総会には31名が出席。山

崎会長の挨拶に続き、石川鼎雄氏が議長に選出された。議事録署名人には井美知子さんと小泉純子さんの紅一点を選出。幹事長の中島章夫氏から活動実績が報告された後、後藤徳彌氏による明快な決算報告と木村真氏からの会計監査報告に異議なしの承認の拍手が響く。

続いて事業計画案、予算案も承認された。事業部の増田勝美氏は、今期も多彩な企画を暖めている様子である。寄付の件、留学生支援、関西支部設立等、今後の課題は多いが、皆で一つ一つ着実に解決して行くのが49会の強みでもある。

3時から始まった総会も4時前には記念撮影をして無事終了した。

懇親会、二次 会も大盛況!

懇親会は2年前と同じ、5号館の食堂で開催された。堅苦しい挨拶は抜きで、名古屋から参加された加納幹郎氏の乾杯で、会はいきなり始まった。小林隆宣氏の軽妙な司会について乗せられてしまった人達の挨拶に笑い声が響く。多くの会員の皆様の挨拶の内容からも、多士済済ぶりを

伺うことができた。

ビール、ワイン、日本酒、ウイスキーと飲み物は十分、料理もボリュームたっぷり。でも、話に夢中になつて量が減らない状態が今年も見られた。

早すぎる時間の経過を惜しみつつも、校歌・応援歌と場面は進み、二次会に出られない方々を代表して、再び登場した加納氏の三本締めでお開きになった。

雨上がりで少し蒸す道を二次会の「丸八」に向かったのは22名。2階の座敷を貸し切りにして、再度話に夢中になった。途中から仕事で総会には参加できなかった葛西聖司氏が合流し、宴は再び盛り上がった。

蒸し暑いのは、我々の熱気のせい



なのか、それともクーラーが効かないのか、窓を開けて外の空気を取り入れるシーンも。酒瓶が次々と空になりつつも、富坂辺りに夜の帳が下りる頃、長く続いた宴も散会になった。各々の三十二年前を通り過ぎた風の香りを思い出しながら、三次会へ行くグループと共に後楽園駅方向へ向かった。心地好い興奮の余韻を感じながら家路についた。(広報部・原 伸止)

自分にとっこの「自己満足」

他人に誇る程ではないが、自分にとっては満足していることとありませぬね。趣味とか特技とか「自己満足」が生きる原動力になっているかも知れません。会員の皆様から届いた「へーっ」という「自己満足」の数々を御覧ください。

ささやかな自己満足

井 美知子(経済) 埼玉県 所沢市

ここ数年、年の瀬も押し迫った12月半ばの日曜日、ちよっとおしゃれをして緊張気味に家をあとにします。年に一度の大人のピアノ、エレクローンの発表会。日頃のレッスンの成果をドキドキしながら発表するので

息子と同時に習い始め、楽譜も読めない息子はどんどんと達するのにも母は遅れを取るばかり。集中力には自信があるのだが、エレクトーンは右手で上鍵盤、左手は下鍵盤、左足でペダルボイス、右足は強弱のペダル。これを一括操作するので、脳からの指示系統は大混乱。末端の運動神経が機能にも問題があるようで、思ったように弾けるようにならない。思っただけで、悪戦苦闘の日々が続くのです。

今年で7年目になりますが、忍耐強い先生の「このごろ楽しんでるに弾いていきますね」という言葉に支えら

れ、難しい曲にも挑戦していますが、息子いわく「階段で足を踏み外しそうな」音は楽しむもの、自分が楽しいからいいじゃないと聞き直り、日々不協和音を響かせています。

主婦に一番欠けているのは緊張感だとか。年に一度の心臓が飛び出しそうなこの緊張感は貴重です。演奏が終わったあとには、この発表会がなかったら、きつと一生懸命に練習などしないだろうなど、ささやかな自己満足に浸りながら家路につくのです。

禅と言う事

石川 健次(通教) 東京都 大田区

禅に関心を持ち、いろいろ調べてみたがよく分からない。自分なりに座禅を試してみたり、禅問答の本を読んだり、ラジオを聴いたり、テレビを見たり。何となく分かったりするが、こうだ、と思うには至らない。

それで、曹洞宗大本山である福井県の永平寺へ、平成6年8月に三泊四日の修行というか、生活に入ってみることにした。そこでの一日は、朝3時起床から

座禅、読経、作務、食事を何度かずつして、夜9時に就寝する。その殆どは、各自にあてがわれた畳半分ほどの場所がある禅堂で過ごすことになる。姿勢は常に座禅の形である。

食事は、朝はお粥と漬物が少々。昼と夕は御飯と味噌汁、野菜が少しある小皿が付く。終わったらお湯で器を順に洗い、最後にそのお湯を呑む。その後食器は布で包み、その場へ置いておく。

座禅、読経、食事の時やその合間も声を出すことはない。従って、目の前や横にも人が居るが、話は一切しない。一日に3回くらい20分間ずつの休みがあり、控室兼寢室で休む。そこは布団とお経の本しかない。テレビや新聞その他一切何もない。

北海道から福岡までの男女18人が一緒だったが、4日間居て少し話したのは作務の時くらいだった。同じ事を皆でしながら言葉を交さないのだから、自分一人と同じである。出所? してみれば良かったと思えうけれど、これを自己満足と言ってしまうのかどうか。座禅、読経、食事とそこには事実があっただけとして、満足したとも、満足できなかったとも、そのような言葉は要らないと思

う。ただ自分があった、という形としての事実だけ、それだけだ。

座禅は、ただ座れば良い。目的もないし、効果も考えない、という。何となく分かったような。だけど、禅は? とになると、形を除いた心のことかなとも思うし。満足した!?

私の地図旅行

大谷 洋一(法) 東京都 武蔵野市

愛読書の一つに「地図」があります。初めて地図帳を手にした小学4年生の時、自分の歩き回るテリトリーの外に土地はずつと広がっていることを発見しました。それ以来、日本や世界の都市、そしてその土地の自然に興味を持ち続けています。おかげで、今では頭の中に立体的な地図ができあがり、テレビや雑誌で見たあちこちの風景がしつかりとインプットされています。こうなると、ニュースで地名が聞こえるや、瞬時にその場所、風景をイメージできます。運がよければ、夢で旅することまで可能です。

ところで旅といえば、まずは列車と宿の予約でしょうか。でも、私の場合は、「今」旅立つことができるのです。実際には出かける地図を眺めながらの「旅」です。乗り物も自由自在。例えば、マイカーで朝8時に出発して中央高速道へ。まずは談合坂SAで休憩、最初は勝沼ワイ

午後は昇仙峡を散策して、見事な紅葉と青い空のコントラストを楽しんだ後、その先の八ヶ岳まで足を延ばしてみよう。宿へ着いたら露天風呂で汗を流そう。たしか、風呂からは彼方に富士山が見渡せるはずだ、など。

我々サラリーマンは、なかなか「旅」のために休みをとりにくいのです。そこできいおおい、人と車で込み合っている土日祝日に出かけることになりません。心のリフレッシュのつもりがかえってストレスに、ということにもなりかねません。その点、地図旅行はこんな煩わしさはなく、好きな時、好きな場所へ行くことができます。まさに「ユビキタス」。

思い出の確認と出会いの旅

大竹 力三(法) 埼玉県 鶴ヶ島市

ちょうど30年ぶりの道を行く。学生時代にバスで通った砂利道が、快適な2車線に変わった道をレンタカーで走っている。

出張で行った青森での仕事が午前中で終了、翌日が土曜日だったので1日帰るのを延ばした。学生時代、ユースホステルに泊まり下北半島を一周したことがある。恐山、尻屋崎、大間崎、仏ヶ浦。30年前の風景が浮かんでくる。そう

だ下北に行こう、と決め、青森駅でレンタカーを借り、浅虫、野辺地と陸奥湾に沿って一踏心山を目指した。

30年前は今にも降り出しそうな曇天で、バスも喘ぎ喘ぎ登った末に着いた所は、人気もなくいかにも霊場そのものだったことを覚えていた。今回は秋晴れの午後で、快適な道路を飛ばしてやってきた。宿坊は真新しく昔の面影はなかったが、恐山そのものは昔と変わらず宇曾利湖を前に厳肅な雰囲気醸し出していた。

薬研温泉の脇を通り大畑に出て大間崎を目指す。水平線の向こうに北海道の影を見つつ快適な道路を走る。ふと下を見ると、海岸線に沿って集落を縫うように昔通った道路があった。30年の年月を感じた一瞬だった。

日没直前に大間崎に着いた。「本州最北端の碑」は変わらずあったが、本マグロの像は最近のものみだった。途中であった下風呂温泉に泊まる。イカ釣り漁船の漁火を眺めながら温泉で体を暖めた。

30年前に来た道をなぞりながら、思い出の確認と新しい発見に出会う旅。仕事や家庭のしがらみを忘れた、たった1日の自「満足」の旅だった。

雨の露天風呂で 道化となる

真田 和義(法) 北海道
札幌市

東京の友を車に乗せ、札幌から130キロ、「北の国から」で有名にな

った富良野を目指した。晩夏の休日朝からどしゃぶりの雨だ。ワイパーがせわしなく動き、対向車のはね上げた水が一瞬、視界を奪う。観光スポットのファーム富田を訪れた。わずかに残った紫色のラベンダーもとうに盛りを過ぎ、観光客の姿はまばらだ。友人は女房へのプレゼントだと、ラベンダー水を3本買った。1本〇百円。もう少し、値の張る土産でも、と内心思ったが、夫婦の間に入って野暮なことは言うまいと口をグッと閉じた。

雨脚は強い。車で30分、十勝岳中腹の露天風呂、吹上(ふきあげ)温泉。私はそのテレビを見ていないが、女優、宮沢りえがロケで入ったという。白樺の並木を下り、露出した岩の間に大人数人が入れる露天風呂が二つ。水で薄めた42度と、源泉の46度だ。もちろん無料だ。60歳を超えている地元男女らと1時間余り、あちこちの温泉談義。日焼けした農家の男は節くれた指が土塊に見える。「都会はにぎやかで、いろいろ便利などがあるだろう。ここはなあんにもないが、金もいらぬ。動くとき熱いぞ。そう、ジューとして上がるときは一気に」。46度は肌がピリピリ、ヒリヒリ、赤くなる。

「アチッチ」と友は叫び、赤猿のように岩場で無様に飛び跳ねた。優越感で自「満足」に陥りがちな都会人も雨の露天風呂では道化の一人だ。

ゼロ釣法で 釣った尺岩魚

橋本 哲郎(理工) 埼玉県
川口市

福島県南会津郡檜枝岐村。かつて「秘境」と呼ばれていた部落も、今や交通網の発達や温泉施設の整備などにより、シーズン中は尾瀬や会津駒ヶ岳の登山客、冬はスキー客で賑わっておりです。この村に同期入社の方と渓流釣りに通い始めたのは二十年前くらい前からです。主に実川、舟岐川、見通沢、モリカケ沢を檜枝岐川の沢筋を攻めて来ました。釣果は毎年Y君の方が勝り、毎回悔しい思いをして来たのですが、何とゼロ釣法を知った昨年からは逆転したのです。

ゼロ釣法とは、限りなくゼロに近い極細の仕掛け(0.1号)で釣る釣法で、オモリやハリも小さいものを使用するので合わせが強いと仕掛けが切れ弱いとバレルし魚の取り込みも難しいのですが、川底を流れに合わせると自然に流すと釣果は抜群と言われています。

昨年の5月の連休、ゼロ釣法の仕掛けと竿を準備した私は、今まで攻めたことが無かった檜枝岐川本流攻めを目標とし、雪解けの濁流の中比較的流れが緩やかなトロ場を探しながら釣り始めました。なにしろ初めての仕掛けなので、狙いをつけたポイントにも届かず、加えて川底を流す関係で根掛かりも多く、文字通り悪戦苦闘し

ておりましたが、大きな岩陰に仕掛けを送ったその瞬間、「ガツン」という手応えと共に、強烈な引きが襲って来ました。この仕掛けで岩の隙間に潜らせてしまうと、簡単に糸を切られてしまいます。岩から遠ざけるよう竿をコントロールしながら暫く泳がせて

弱のを待ち、水面に顔を出すのを観て慎重に引き寄せタモに取り込みました。初めて釣った三センチを超えろ岩魚でした。この間、二三分程度だったと思いますが、今思い出しても胸がわくわくする一時でした。

岩魚を見たY君も民宿のオヤジさんも「こりや、放流もんだね」と言いましたが、天然だろうが放流だろうが、そんなことはどうでもいいんです。釣場でもなく、管理釣り場でもない自然の川で尺岩魚を釣ったんです。それも初めてゼロ釣法で釣ったんです。来年は「自「ベスト」を狙います。

指輪にこめた 夫婦の絆

松平 守(経済) 新潟県
長岡市

論語の一節に「五十而知天命」とある。節目の50歳を過ぎたいま、改めて自分の人生を振り返ってみると、我れ未だその境地に達せずである。人生80年の時代を迎え、これからの20年、30年をどう生きるべきか

問い続けねばならない。先日、臍膵炎で通院した時のこと

である。先生の何気ない一言に、はたと心を揺り動かされたのである。その一言とは、指が腫れ指輪が抜けない状態を見て「どうしても抜けない様であれば切断しなければならぬ」と言われたことである。

指輪を「切断」という言葉に、それだけは何としても避けなければならぬという不思議な感情が沸いたことである。痛みを耐え、必死に耐えた。今度は不思議な力が沸いてきていったい何になつた。嗚呼これで良かった、と。

結婚以来何の違和感もなく当然の如くはめていた指輪に、こんな不思議な「力」があることを知り、改めて「夫婦の絆」について考えさせられた。

苦あれば楽あり、山あれば谷あり、これからの人生まだまだ順風満帆と言いつには行かないが、この時の気持ち大切に、たとえ平凡であったとしても、苦楽を共にできる充実した人生としたい。

金婚月来、単身赴任生活も3年半を過ぎようとしている。健康に留意し、現在を精一杯生き抜くことからその第一歩としたい。



友へのメッセージ

我がコレクション人生

宮川 保(経済)



皆さんにも心当たりがないだろう

か、子供の頃、切手やコイン集めに熱中したことは。私の場合、物心ついた時から何か収集していたように思う。両親はもとより、親戚にも収集癖を持っている人が見当たらないので、これは血というわけでもない。

だいたい人間へそ曲がりにできていたので、あまり人が注目していない分野のものを集めるのだが、これには、ちよつと力を入れれば、たちどころにして日本有数のコレクターになれるという大きなメリットがある反面、同好の士を見つるのが困難というジレンマを抱えることになる。

ある程度、人に誇れるコレクションがいくつかあるが、その一つが勲章だ。人に序列をつける勲章制度そのものに対しては、かなり懐疑的なのだが、それが持つ美術品的魅力にとりつかれたのだから致し方なからう。そもそも興味を持ったのが小学校3年生の時だったのだから。

それ以降、掘り出し物を捜し求め

て東奔西走。今は、毎週日曜日に都内の神社で開かれる骨董市などに始発電車まで駆けつけ、陽も昇らぬうちから懐中電灯片手に捜し回る。常人から見れば、かなりヘンな奴に違いない。苦勞の甲斐あつてか、日本のものは、文化勲章など特殊な物を除いてほぼ完全に集め終えた。その後

は、外国の勲章にも手を広げ、そのエナメル細工のすばらしさに感動を覚えていた。

ネットオークションで収集に再点火!

熱心に集めていたが興味を失い、完全にストップしてしまつたものもある。一方、大昔に集めていて、最近また復活したものもある。近年流行のインターネットオークションが影響しているのだが、その一つに競馬関係のグッズが挙げられる。

ハイセイコーが登場した前後、競馬観戦に熱中。収集癖のある私としては、何かコレクションできるもの

をと考え、行き着いた先が勝負服。騎手が着ている、あの派手な服である。何着かは集まつたのだが、馬主や競馬サークルと縁がなかつた私には限界があつた。結局、仕事が忙しくなるに伴い、競馬やそのグッズに對しての興味も無くしていった。

しかし昨年、ネットオークションに勝負服が大量に出品されていることを発見。こうなると昔の情熱がよみがえり、早速に落札したのは言うまでもない。これについては、いろいろと語りたいたいこともあるのだが、紙幅が尽きた。

趣味偏重な生活をしていると、金ばかりかかるわ、場所はふさぐわ、家人には邪魔だと邪険にされるのだ、あまり良いことはないのだが、人生を楽しむための必需品となつているのだからと、前向きに考えている今日この頃である。

会員の皆様に自分のことを語つていく「友へのメッセージ」の原稿を募集しています。生きさま、趣味健康など、自分の体験からしみ出るメッセージをお送りください。字数は400字詰め原稿用紙3枚ぐらいでお願いします。

事業部掲示板

新年会

今回も前回と同じ銀座の「Sunmi高松」で行います。土曜日の午後5時、美味しい料理とお酒で友好を深めましょう。もちろん、二次会の用意もしております。

多数の会員の皆様の参加をお待ちしております。

日時 平成16年1月31日(土)
午後3時~5時

場所 Sunmi高松

東京都中央区銀座6-3-9

TEL 03-5568-3300

会費 5千円

今後の予定

①春のハイキング

②グルメの会(老舗めぐり)

③映画鑑賞会

実施決定後、ホームページ「掲示板」に実施方法を掲出します。

※11月15日に実施した「川越ハイキング」の報告は、次号掲載します。

※事業部の活動とは別に、皆さんの計画がありましたら、ホームページ「掲示板」を使って仲間集めをしてみませんか。

山崎司平法律事務所

第二東京弁護士会所属
日本弁護士国民年金基金常務理事
中大法学部非常勤講師

辯護士 山崎 司平

東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階
電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

主要取扱申請書類等

- ◇建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行
行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

大川端屋形舟情緒

「49年白門会で屋形舟に乗ろう」という催しが8月9日に計画されたが、季節外れの台風10号の直撃で中止になってしまい、再度の企画となったのが9月20日。

折しも台風15号が関東地方を窺っている時、柳橋「小松屋」周辺は今にも降り出しそうな曇天に覆われていた。誰ともなく「確か設立総会は雷雨だったし、新年会は大雷だった。集まるときは結構天気が悪いね」との言葉に頷くと、細かな雨が頬に当たり始めた。「あつ落ちてきた」、「残念ね」の声。

でも柳橋はこの一角だけが昔の刻から切り貼りされたような趣で、小糠雨が良く似合いそうな街である。川には色とりどりの屋形舟が揺れている。

参加者18名が神田川に浮かぶ真っ赤に塗られた「第八小松丸」に乗り込み、定刻通り正午の出舟となった。外觀に違わず船内も広くゆったりしているが、動き始めると思ったより揺れが大きい。風が強まり川面に細波が立つてきた。初めて乗る人も多く、不安そうな顔も見えるが、山崎会長の「かんばしい」の発声でビールをグビッ、グビッと喉に通し、プハーっとくれば不安もどこかに飛んでいってしまう。

今日一番の遠出は、富山から駆け

付けてくれた浜手基親さん。富山の香りに地酒や蒲鉾等の土産を包んで参加された。一方、奥方を伴っての参加は山崎司平さんである。

神田川から柳橋を過ぎるとそこは隅田川。多くの橋を潜り、雨に煙る街並を遠目に進む。佃島、浜離宮を過ぎ、レインボーブリッジを見上げながら白場辺りに近づく。アンカーを降ろし暫く停泊となる。船外にはウミネコが餌を求めて舟に寄り添うように鳴きながら飛んで来る。

テーブルにはテンプラをはじめ各種料理が並び、お酒も飲み放題となれば当然会話も弾む。お酒も進み舟の揺れも気にならなくなってきた頃誰かが歌い始めたか、カラオケ大会となっていた。「怪傑ハリマオ」こ



れが青春だ」等の懐かしい歌に続いて演歌、そして少し今風の歌も出る。歌声が一段落した頃、再び柳橋を

目指して舟のエンジンがうなり、小刻みな振動が水上に居ることを改めて教えてくれる。

いつも通りにお聞きは校歌・応援歌。そうこうするうちに「こころはお江戸か」と口ずさむのを聞くと「神田川の街なら大学は中央」と皆で追いつき大合唱になる。

遠くの岸辺に傘を差しながら、の

ホームカミングデーに参加して

9月28日、秋晴れの爽やかな日差しの下、第14回ホームカミングデーが多摩キャンパスにおいて開催された。小生、春の観桜会には何度も参加はしているが、秋のこの会は今回が初めてであった。

当日JR中央線「三鷹」立川間の工事遅延や人身事故が重なり、小生が着いたのは懇親会の始まる12時ギリギリだった。会場の入り口周辺では、多くのOBやその家族が順序よく列を成して開場を待っていた。

我が49年白門会の中島章夫幹事長が、49年会の幟を掲げて入り口に並んでいてくれたので合流させていただいた。懇親パーティーは、バイキング形式の立食で、トレイに好みの料理をチョイスして49年白門会のメンバーが集まるテーブルに行った。山崎会長を始め総勢8名が集まった。大西学

員会会長の挨拶が長く、手にしたビ

んびり行き交う人々が見える。周囲の風景は変わっても大川端情緒と呼ばれた隅田川の風情はまだ残っているように何となくホッとします。

鮮やかな傘さばきで「第八小松丸」が着陸したのは2時間半後、篠突く雨が叩き付ける棧橋で慌てて傘を開き「小松屋」まで走る。

雨足が更に強まる中を名残惜しくも柳橋を後にした雨男雨女の土曜日の午後であった。

（広報部・原 伸止

ールが飲めず、少々閉口した。

懇談に入り、司会者より主だった現役、OBの活躍振りが報告、披露された。中でも在学中に北朝鮮に拉致され昨年帰国された法学部の蓮池薫さんのメッセージが読み上げられると、ざわめきが静まり、会場全体が聞き入っていた。

時代の流れか、会場も喫煙場所が指定され、ヘビースモーカーの小生は喫煙場所とメンバーのテーブルの間を数度往復する羽目になった。

恒例だという福引抽選会では我がメンバーからは立派な出なかった。

お開き後は会場をクレセントホールに移し、応援団による校歌、応援歌の斉唱を聞いた。後ろで踊るチャガールが躍動的で新鮮さを感じた。秋の日差しを浴びながら散会し、三々五々モノレールの駅へ向かった。

（広報部・村岡 潤

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざア言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063

電気設備・設計施工 **FUNAMI**

栃木県庁 宇都宮市役所指定 関東一円

株式会社 船見組

代表取締役社長 **船見 二三男**

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾5丁目3番6号

TEL 028-622-0321 (代)

FAX 028-624-4499

